

「生物多様性」に関する市民アンケート調査結果

令和5年7月 環境政策課

調査対象 LINE市民アンケート（約4万人へ配信）

調査期間 令和5年6月21日～7月4日

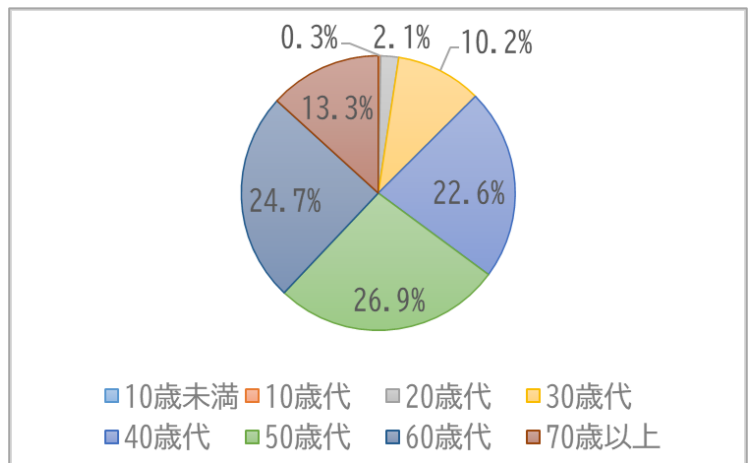
調査方法 LINEから市HPアンケートシステムへリンク

調査目的 「生物多様性」に関する市民の認識を把握し、生物多様性地域戦略の改定作業及び今後の市政運営の参考とするために実施するもの。

（回答者の属性）

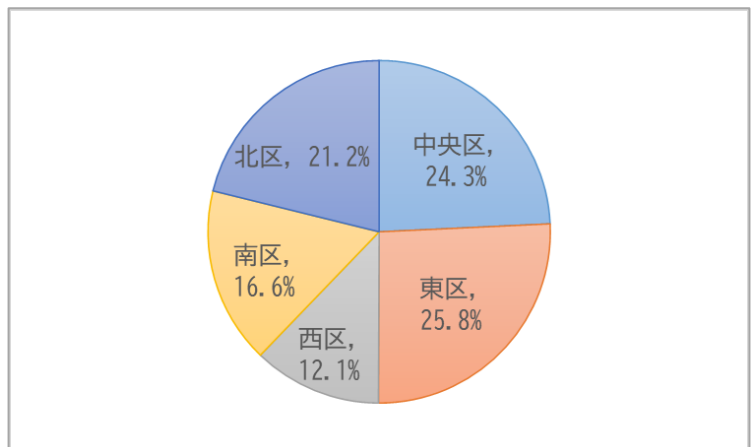
■年代別

選択肢	人数	構成割合
10歳未満	0	0.0%
10歳代	2	0.3%
20歳代	15	2.1%
30歳代	72	10.2%
40歳代	160	22.6%
50歳代	191	26.9%
60歳代	175	24.7%
70歳以上	94	13.3%
計	709	100%



■住まい

選択肢	人数	構成割合
中央区	172	24.3%
東区	183	25.8%
西区	86	12.1%
南区	118	16.6%
北区	150	21.2%
計	709	100%

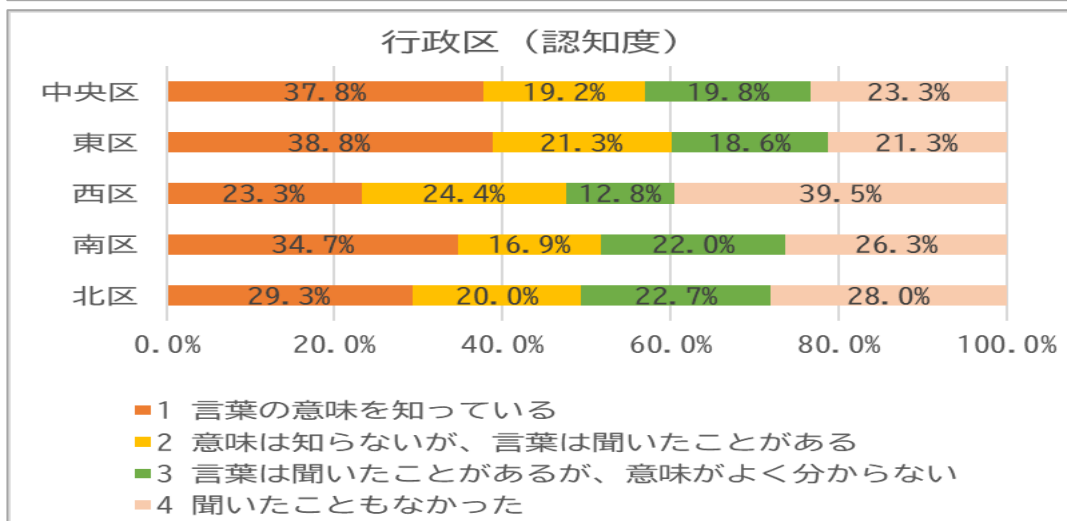
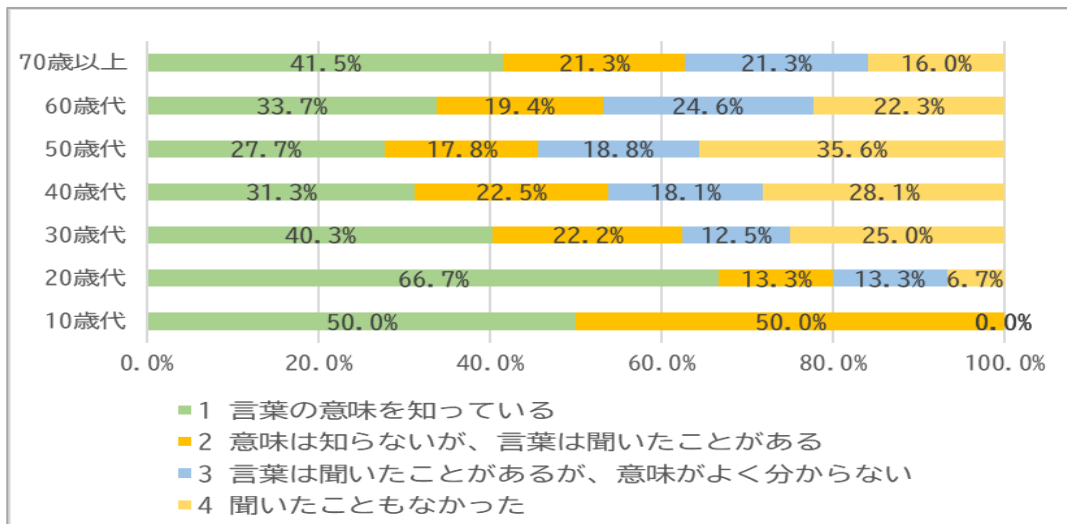


【問1】「生物多様性」とは、生きものたちの豊かな個性とつながりのことで、私たちが自然から受ける様々な恵みの基盤のことですが、あなたは「生物多様性」について知っていましたか。

【ポイント！】

「生物多様性」という言葉の認知度は、「言葉の意味を知っている」が34.0%と最も多く、次いで「聞いたこともなかった」が26.2%、「意味は知らないが、言葉は聞いたことがある」が20.2%となっている。

選択肢	人数	構成割合
1 言葉の意味を知っている	241	34.0%
2 意味は知らないが、言葉は聞いたことがある	143	20.2%
3 言葉は聞いたことがあるが、意味がよく分からない	139	19.6%
4 聞いたこともなかった	186	26.2%
計	709	100%



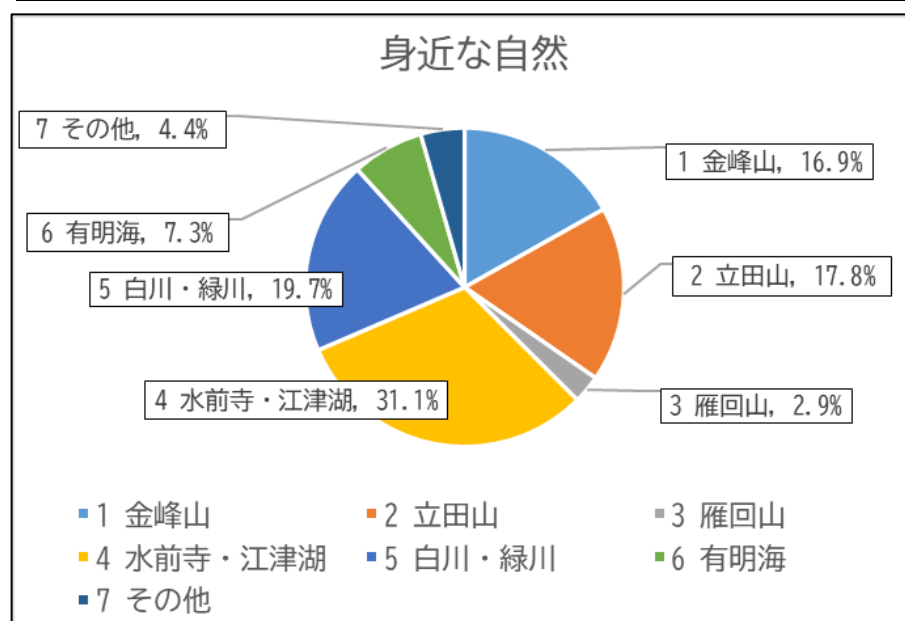
◆年代別でみると、20代において「言葉の意味を知っている」が66.7%と多くなっている。COP10以降に学校の授業（環境教育）などで触れる機会が多かった年代と推察される。行政区別では、東区が「言葉の意味を知っている」割合が38.8%で一番多くなっている。

【問2】あなたにとって熊本市の身近な自然はどこですか。（複数回答）

【ポイント！】

身近な自然はどこかについて、「水前寺・江津湖」が31.1%と最も多く、次いで「白川・緑川」が19.7%、「立田山」が17.8%となっている。白川・緑川の認知度が高い要因としては、他の選択肢に比べ、区を跨いで存在していることが、より身近に感じられたものと推察される。

選択肢	人数	構成割合
1 金峰山	254	16.9%
2 立田山	268	17.8%
3 雁回山	43	2.9%
4 水前寺・江津湖	468	31.1%
5 白川・緑川	297	19.7%
6 有明海	110	7.3%
7 その他	67	4.4%
計	1,507	100%

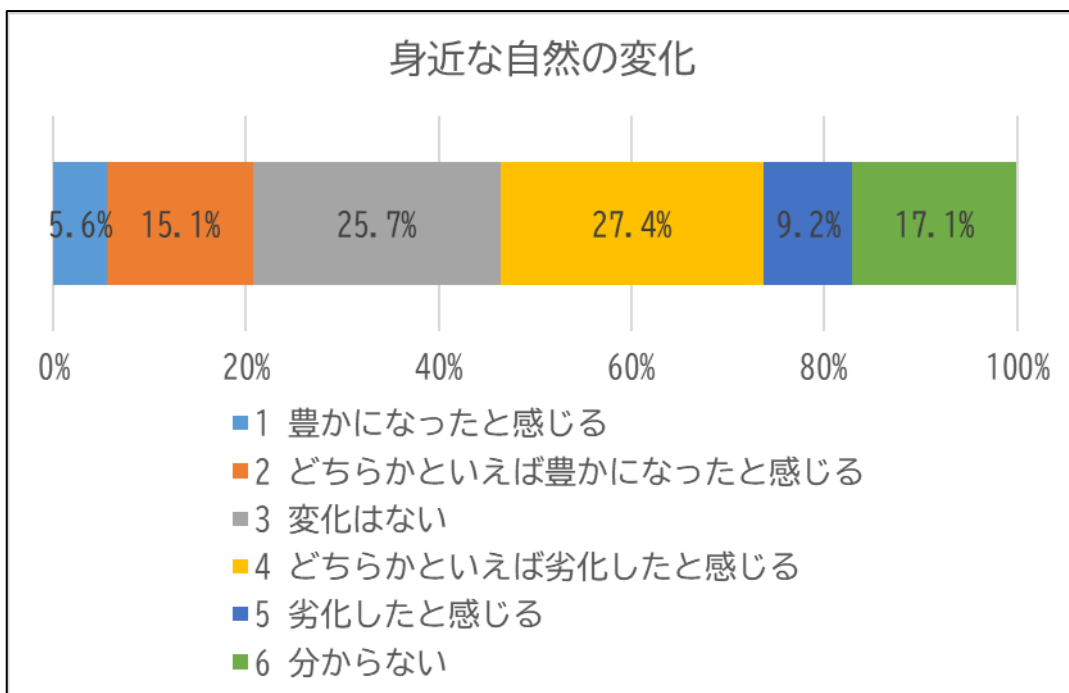


【問3】問2の回答で、あなたはその場所が以前と比べてどのような変化があったと感じますか。

【ポイント！】

以前との比較について、「どちらかといえば劣化したと感じる」が27.4%と最も多く、次いで「変化はない」が25.7%、「分からない」が17.1%となっている。

選択肢	人数	構成割合
1 豊かになったと感じる	40	5.6%
2 どちらかといえば豊かになったと感じる	107	15.1%
3 変化はない	182	25.7%
4 どちらかといえば劣化したと感じる	194	27.4%
5 劣化したと感じる	65	9.2%
6 分からない	121	17.1%
計	709	100%

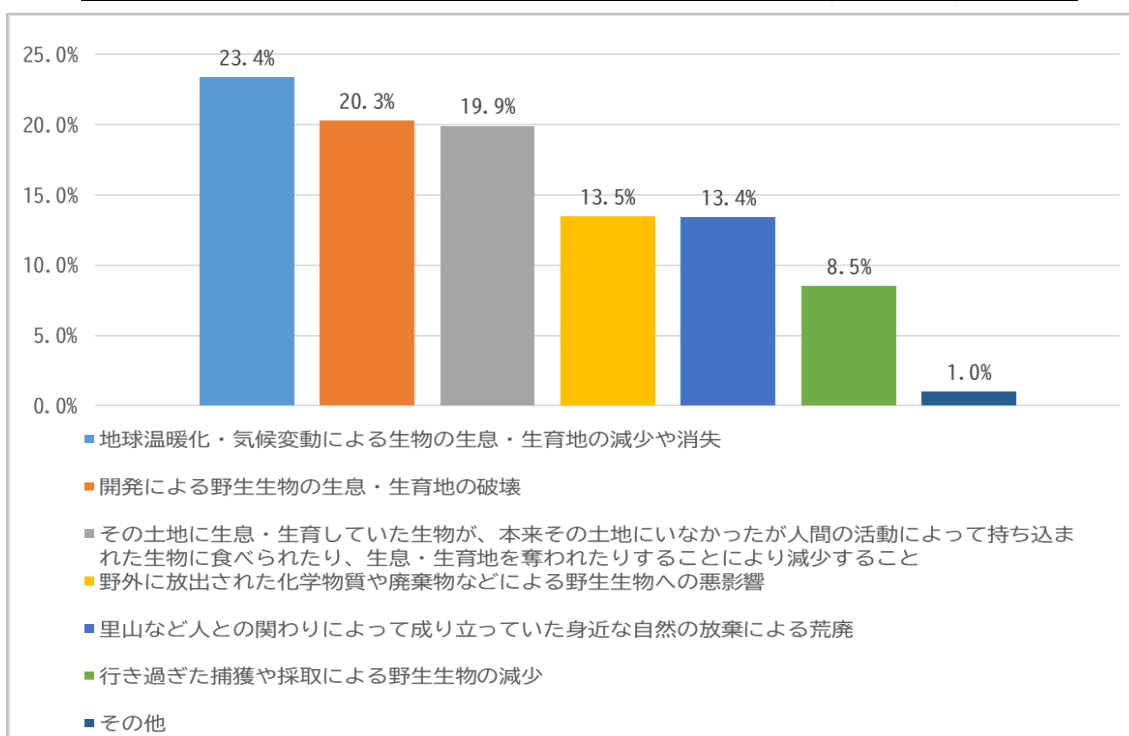


【問4】生物多様性は、食料や木材、薬など、私たちの生活に欠かせない様々な恵みをもたらしてくれますが、人間活動などの影響で危機に直面しています。あなたは、危機を招く原因は次のうちどれだと思いますか。（複数選択）

【ポイント！】

危機を招く原因としては、「地球温暖化・気候変動による生物の生息・生育地の減少や消失」が 23.4%で最も多く、次いで「開発による野生生物の生息・生育地の破壊」20.3%、「その土地に生息・生育していた生物が、本来その土地にいなかったが、人間の活動によって持ち込まれたり生物に食べられたり、生息・生育地を奪われたりすることにより減少すること」が 19.9%となっている。

選択肢	人数	構成割合
地球温暖化・気候変動による生物の生息・生育地の減少や消失	562	23.4%
開発による野生生物の生息・生育地の破壊	488	20.3%
その土地に生息・生育していた生物が、本来その土地にいなかったが人間の活動によって持ち込まれた生物に食べられたり、生息・生育地を奪われたりすることにより減少すること	479	19.9%
野外に放出された化学物質や廃棄物などによる野生生物への悪影響	324	13.5%
里山など人との関わりによって成り立っていた身近な自然の放棄による荒廃	323	13.4%
行き過ぎた捕獲や採取による野生生物の減少	205	8.5%
その他	24	1.0%
計	2,405	100%

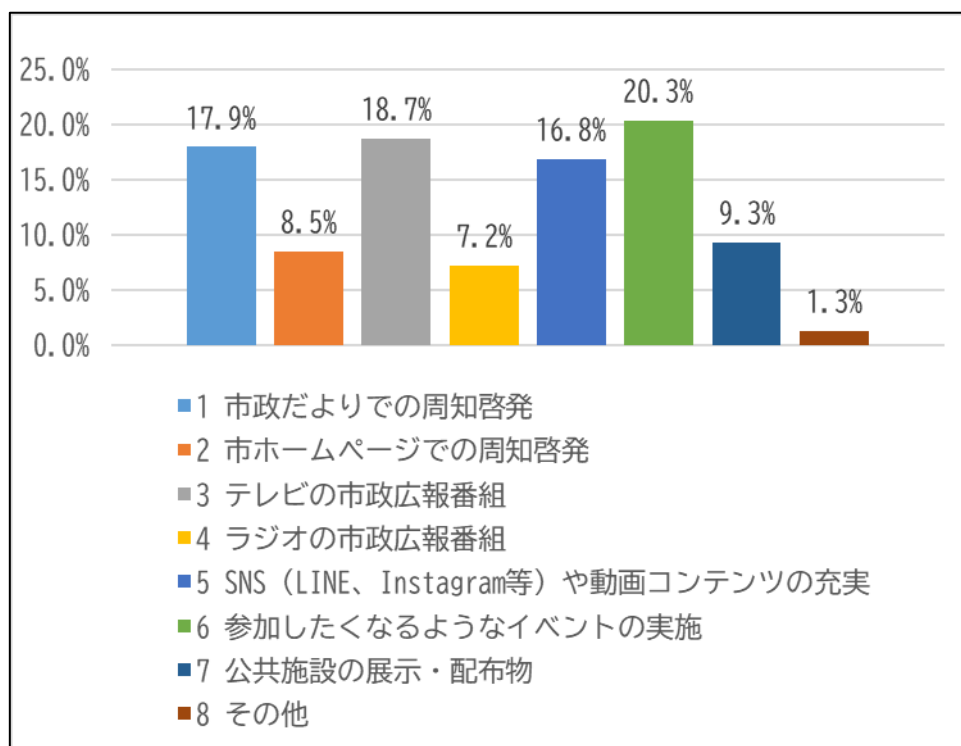


【問5】「生物多様性」に関する情報を知ってもらうために、どのような取組が重要だと思いますか。(複数回答)

【ポイント！】

情報周知のための重要な取組としては、「参加したくなるようなイベントの実施」が20.3%と最も多く、次いで「テレビの市政広報番組」が18.7%、「市政だよりでの周知啓発」が17.9%となっている。

選択肢	人数	構成割合
1 市政だよりでの周知啓発	391	17.9%
2 市ホームページでの周知啓発	185	8.5%
3 テレビの市政広報番組	407	18.7%
4 ラジオの市政広報番組	157	7.2%
5 SNS（LINE、Instagram等）や動画コンテンツの充実	366	16.8%
6 参加したくなるようなイベントの実施	442	20.3%
7 公共施設の展示・配布物	203	9.3%
8 その他	28	1.3%
計	2,179	100%

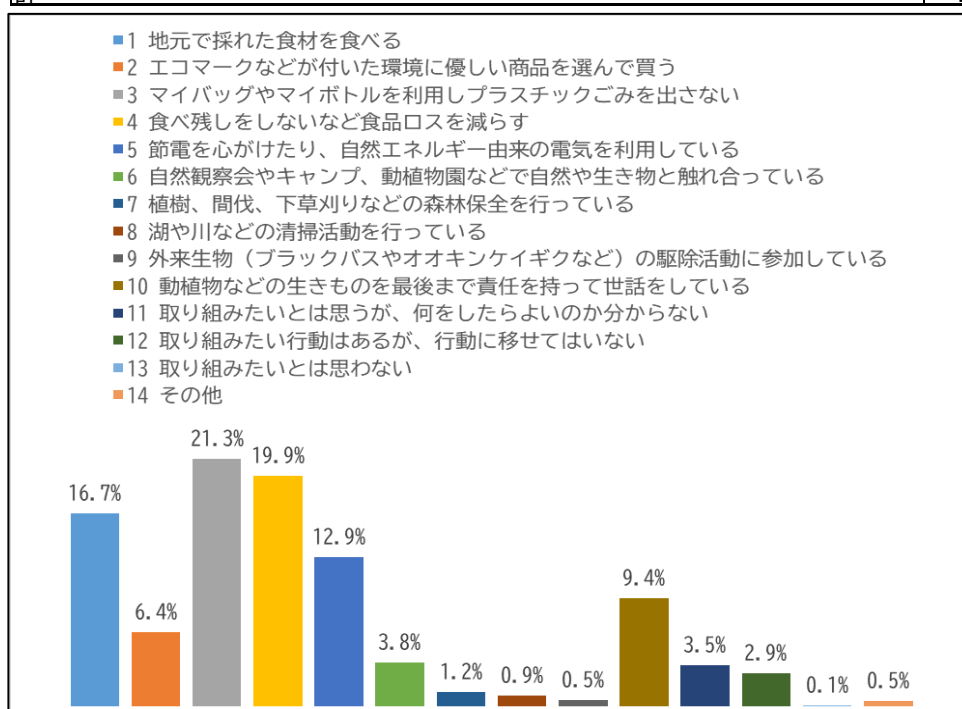


【問6】あなたは、生物多様性に配慮した行動として、次にあげるものの中で、既に取り組んでいることはありますか。（複数選択）

【ポイント！】

既に取り組んでいる生物多様性に配慮した行動としては、「マイバッグやマイボトルを利用しプラスチックごみを出さない」が21.3%で最も多く、次いで「食べ残しをしないなど食品ロスを減らす」が19.9%、「地元で採れた食材を食べる」が16.7%となっている。生物多様性に配慮した行動という認識があったかどうかは別にして、多くの市民が、生物多様性に配慮した行動を既にとっていることが分かり、環境への関心の高さが分かった。また、これまでやってきた行動について、「生物多様性」への配慮にもつながっているということが、知らずに実施してきた市民の方たちへ「知る」きっかけを与える一助になったと思われる。今後も、行動変容につながるきっかけづくりが重要となってくるため、更に、工夫しながら取り組みを進めていきたい。

選択肢	人数	構成割合
1 地元で採れた食材を食べる	433	16.7%
2 エコマークなどが付いた環境に優しい商品を選んで買う	166	6.4%
3 マイバッグやマイボトルを利用しプラスチックごみを出さない	554	21.3%
4 食べ残しをしないなど食品ロスを減らす	516	19.9%
5 節電を心がけたり、自然エネルギー由来の電気を利用している	334	12.9%
6 自然観察会やキャンプ、動植物園などで自然や生き物と触れ合っている	98	3.8%
7 植樹、間伐、下草刈りなどの森林保全を行っている	32	1.2%
8 湖や川などの清掃活動を行っている	24	0.9%
9 外来生物（ブラックバスやオオキンケイギクなど）の駆除活動に参加している	14	0.5%
10 動植物などの生きものを最後まで責任を持って世話をしている	243	9.4%
11 取り組みたいと思うが、何をしたらよいか分からない	92	3.5%
12 取り組みたい行動はあるが、行動に移せてはいない	75	2.9%
13 取り組みたいとは思わない	3	0.1%
14 その他	13	0.5%
計	2,597	100%

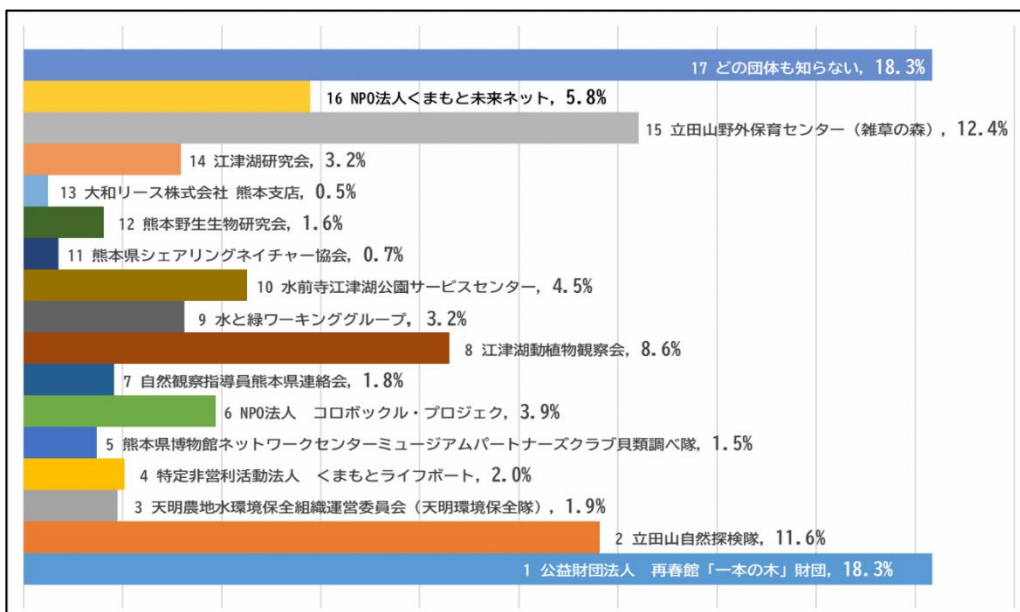


【問 7】熊本市の生きものや自然を守り、未来に引き継ぐため、生物多様性の保全や持続可能な利用のために、下記の団体が活動されています。あなたが知っている団体「全て」にチェックをつけてください。

【ポイント！】

(いきもんネットの中で) 知っている活動団体としては、「再春館「一本の木」財団」が 18.3%と認知度が最も高く、「立田山野外保育センター（雑草の森）」が 12.4%、「立田山自然探検隊」が 11.7%となっており、現戦略策定後に取り組んできた「いきもんネット」の周知啓発については一定の効果が得られたと考える。しかしながら、18.3%がどの団体も知らないと答えていることから、推進会議の中でも意見のあった、活動団体とおしのつながり強化や協働での取組、活動内容の発信について、今後、更なる展開に向けて取り組んでいく必要がある。

選択肢	人数	構成割合
1 公益財団法人 再春館「一本の木」財団	262	18.3%
2 立田山自然探検隊	168	11.7%
3 天明農地水環境保全組織運営委員会（天明環境保全隊）	27	1.9%
4 特定非営利活動法人 くまもとライフポート	29	2.0%
5 熊本県博物館ネットワークセンターミュージアムパートナーズクラブ貝類調べ隊	21	1.5%
6 NPO法人 コロボックル・プロジェクト	55	3.8%
7 自然観察指導員熊本県連絡会	26	1.8%
8 江津湖動植物観察会	124	8.7%
9 水と緑ワーキンググループ	46	3.2%
10 水前寺江津湖公園サービスセンター	65	4.5%
11 熊本県シェアリングネイチャー協会	10	0.7%
12 熊本野生生物研究会	24	1.7%
13 大和リース株式会社 熊本支店	8	0.6%
14 江津湖研究会	47	3.3%
15 立田山野外保育センター（雑草の森）	177	12.4%
16 NPO法人くまもと未来ネット	83	5.8%
17 どの団体も知らない	260	18.2%
計	1,432	100%



【問8】熊本市が実施している、生物多様性保全のための取組について、知っているものを「全て」選んでください。

【ポイント！】

当課で実施している取組で知っているものとしては、「江津湖地域における特定外来生物等による被害の防止」が 22.9%と最も高く、次いで「市民参加型セミ調査」が 10.9%となっているが、「どの取組も知らない」が 44%となっており、周知啓発に課題が残る結果となった。

選択肢	人数	構成割合
1 熊本市生物多様性戦略（Cプラン）	22	1.9%
2 生物多様性副読本「いきものさがし」	33	3.9%
3 ニュースレター『生物多様性くまもとCだより』	20	2.0%
4 熊本連携中枢都市圏でのアライグマ生息状況調査	51	5.8%
5 市民参加型セミ調査	106	10.9%
6 いきものフェア	78	8.7%
7 江津湖地域における特定外来生物等による被害の防止	208	22.9%
8 どの取組も知らない	386	44.0%
9 その他	0	0.0%
計	796	100%

